



関西SDGsユースアクション情報紙



SDGs YOUTH ACTION

KANSAI SDGs PLATFORM KNOWLEDGE LAB & EXPO2025

“ひなた”と考える、いのちの生かし方

TEAM
EXPO
2025

いどもう。みらいに。
“共創チャレンジ”

キャストの活動は、大阪・関西万博の「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創チャレンジとして登録している活動です。

- 02 命を未来につなぐために
- 04 多様性を知って、みんなで認め合おう
- 06 見て、知って、触れ合うSDGs体験
- 08 行動することで見えてくる景色
- 10 「世界」を変える第一歩を。



山川 夏希

南 ひなた

広瀬 優子

育てよう、自分だけの命

今回のテーマは、「命」や「生き方」です。主人公ひなたをはじめ、登場人物が成長する過程で、多様な命について学んでいきます。農業や戦争と平和、LGBTQ など内容はさまざまです。多様な観点から「命」について学び、自分の生き方を見つめ直すきっかけになると嬉しいです。命と聞くと難しく感じるかもしれませんが、そんなことはありません。物語の中を旅しながら、主人公ひなたと一緒に考えてみましょう。

vol. 5
2024.4

命を未来につなぐために

多様な命と共にどんな生き方があるのか、主人公「ひなた」と一緒に考えてみよう！

【小学生編①】見えない努力がつくるあなたの『命』

これは、南ひなたが『命』の生かし方について学んでいく物語。

「ひなた一、こっちこっち！」

温かい日差しが差し込むカフェの店内で、私を呼ぶ声が響いた。私は、南ひなた。卒業を控えた大学4年生で、食べることが大好き。

「2人とも来てたんだね。ごめん、待った？」
「全然待ってないよ！久しぶりだね。」

山川夏希がはずんだ声で答えた。夏希はボーイッシュで元気いっぱいな女の子だ。小学生のときから仲良くしている3人組のうちの1人で、私の幼なじみ。

「ひなた、久しぶり！」

そして、広瀬優子。おとなしくて、とても優しい女の子。私は、彼女が誰かを傷つけてしまったところを見たことがない。今日は、久しぶりに集合してランチをする。やっとのことで全員の予定が合ったので、とても楽しかった。私たちは窓際のテーブル席に腰を下ろして1番人気のランチを頼んだ。

「わあ、おいしそう！いただきます！」
「3人でご飯を食べてと、給食を思い出すな」

夏希の言葉で、小学校での給食の記憶が蘇ってくる。もう食べられないと思うと、少し残念な気持ちになるくらいおいしかった。そして、なぜだか唐突に、とある言葉が私の脳内に浮かんだ。

「きっと、見えない誰かの命をつくることだと思うから」

ご飯を食べていると、ふと、その言葉を思い出さることがある。私たちの命は、あの人たちの努力によって未来へつながっていくんだってことを……。

「ねえ、夏希、優子、小学生のときの田植え体験、覚えてる？」
「そんなことあったね。」
「うん、ウチも覚えてるよ」

一あの日は確か、雲一つない快晴だった。小学3年生の5月。学校の行事として、近所の田んぼで田植え体験をした。ジメジメした泥に長靴を沈め、手に持った稲を植えていく。まだ夏でもないのに全身汗まみれでビしょリ。1つ苗を植えて、次の地点を目指そうと片足を上げたとき……

「うわあ！」

私は足を取られてしまい、泥の糞をまとった。

「へっ、南のやつ、こけてやんの」

泥まみれになった私をからかってくる男子が1人、澤田達也。少しヤンチャな男の子。私がこけたんだから助けてくれたらいいのに。

すると、農家の人が駆け寄ってきてくれた。

「大丈夫？ケガはないかい？」

「は、はい。大丈夫です。ありがとうございます」

「ひなた、大丈夫か？」

「ひなたちゃんケガしてない？」

夏希と優子も心配で駆けつけてくれた。でも、泥まみれになるくらいだったら休めばよかったと少し後悔した。

数日後、私は下校中にあの田んぼ道を通った時、真剣そうに草を刈っている農家さんが目に入った。私は、この前のおれも込めて挨拶をした。

「すみません。この間は、ありがとうございます」

「うん？ああ、体験に来てくれた子だね。今、みんなが植えてくれた稲を守るために、周りの草を取ってたところなんだ。過気性を確保しないと、害虫がわいてしまうからね」

「そうなんですか！大変そうですね」

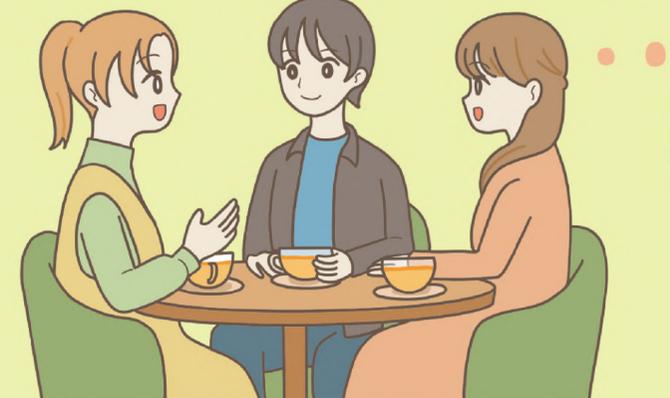
「大変だけど、やりがいはあるよ。農業をすることは、きっと、見えない誰かの命をつくることだと思うから。これは、みんなの命を未来につなぐことができる仕事なんだ」

その言葉が、なぜだか、とても印象に残っている。そして、次の日も。その次の日も。毎日。毎日。農家さんは田んぼで作業をしていた。体験から数ヶ月がたったある日。ついに、私たちが植えたお米が給食で出されることになった。とってもおいしかった。

このお米は私たちが植えたものだけど、そこには、農家さんの隠れた頑張りがあったんだ。私たちが食べるってことは、その頑張りをいただくってことなんだね。

命をつくってくれた人たちと、その努力に感謝しながら、私たちは手のひらを合わせてこう言った。

「ごちそうさまでした！」



南 ひなた
卒業を控えた大学4年生。食べることが好き。久々に幼なじみ2人と集まり、小学生の思い出を振り返っている。



山川 夏希
卒業を控えた大学4年生。ひなたの幼なじみ。ボーイッシュで元気はつらつとした性格。



広瀬 優子
卒業を控えた大学4年生。ひなたの幼なじみ。おとなしくて、優しい性格。

【小学生編②】その歴史、繰り返しさぬように…。

私たちは、ハーブティーを頼み、お茶の時間に移行していた。優子が思いついたように口にした。

「小学校の修学旅行、楽しかったね」

「いろんなところに行ったよな。遊園地とか水族館とか、すごく楽しかった」

そう、修学旅行はとても楽しかった。でも1つだけ『楽しい』とは表現し難い場所に行ったんだ。そこで私たちは、歴史を学び、理不尽さを学び、人間の愚かさを学び、現実を思い知らされた。

一6年生の修学旅行。緑が生い茂るなか、小鳥の鳴く声が平和を感じさせる7月上旬。木漏れ日が足下を照らす森を進んだ先にその建物はあった。戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるこの場所で、私たちは、その使命を終えようとしている1人の老人と出会った。

「僕たち語り部は、この平和資料館で、戦争の怖さを風化させないために活動しています」

その老人は、分厚い丸眼鏡の奥にある瞳で、遠い昔を見つめるかのように話し始めた。

「今の平和な日本からは想像できないかもしれないけど、昔、戦争がありました」

『戦争』。語り部さんの口から発せられたその言葉が私の脳内を支配する。戦争があったことは知っていたけれど、実際に聞くとすると、少し体が震える。いつもならおどける澤田達也さえ、今回ばかりは茶化さず、真剣な顔で聞いている。

「戦争はひどいものだよ。同じ人間同士のはずなのに、別の国、別の地域で生まれただけで、敵と味方に分かれて命を奪い合うことを強制される。兵士として駆り出された人たちは青色の軍服をまとい、故郷を離れ敵地に赴く。そして、泥まみれになりながらも茂みをかき分けて駆けていく。本当ならわかり合えるはずの敵から、命を奪うために……」

「そんなのおかしいだろ。ひどすぎる……」

夏希が悔しそうにつぶやく。

「そして、その犠牲は人間だけじゃない。空襲によって動物園の檻(おり)が壊れる可能性があった。もし、檻が壊れちゃったら、中にいる動物たちが逃げ出して人を傷つけるかもしれない。だから人間たちは、毒入りの餌を与えたり、餌を与えずに絶食させたりして、動物園にいるゾウやヒョウの命を奪ったんだ」

語り部さんの言葉1つ1つがイメージさせる。想像したくないことを……。ゾウの涙。ヒョウのう

めき声。動物たちのもがき苦しむ過去の嘆きが今の私に流れてくる。

「戦争でたくさん命が失われたんですね……。とても、悲しいです」

優子の震えるような弱々しい声。

「そうだね。だから、誰かがこの話を伝えていかないとダメなんだ。みんなが忘れちゃうと、同じことが起こってしまう危険性がある。そうならないために、僕は『語り部』をした。でも、体に限界がきちゃってね。だから、今回の講演で『語り部』を引退するんだ」

語り部さんがやめてしまったら、戦争の怖さを伝えていく人がなくなってしまふ。もしそうなら、また同じことが……。語り部さんはそれまでの真剣な顔から一変、柔和な笑みを浮かべながら、言葉を続ける。

「だからこそ、みんなには『語り継ぎ部』になってほしい」

「『語り継ぎ部』？それはなんですか？」

私は、その言葉を初めて耳にした。

「語り継ぎ部とは、戦争の体験をしていなくても、戦争の怖さや平和の尊さを伝えていく人たちのことだよ。僕たちの想いを未来につないでいってほしいんだ」

そうだ、私たちはつないでいなければならない。戦争の恐怖を風化させてはならない。本当は生き残った命のために。今を生きて命のために。そして、これから生まれる命のために。

農業の魅力



稲清農園で育ったシャインマスカット

あなたの命をつくる人

あなたは、『農業』に対してどのようなイメージをお持ちですか？私たちの『食』を農家の方々を支えているのは言うまでもなく農家さんの努力によって私たちは安心・安全な食品を口にできています。農家さんが私たちの『命』をつくっていると聞くと、過言では無いでしょう。

直売所ってなに？魅力ってなに？

稲清農園は、大阪府柏原市にある果樹園です。ぶどうを中心に生産・直売を行っています。その種類は、デラウェアやシャインマスカットをはじめ、市場にまだ浸透していないクインシーナや竜宝など多岐にわたります。稲清農園はぶどうの『直売所』となっています。直売とは、文字通り、作った人がお客さんに直接販売することを言います。この直売の魅力は、新鮮な商品を買うことです。直売で購入することで、より質の高い食材を口にできるようになります。また、生産者のこだわりを直接感じること

ができます。直売所では、実際に作った人とのコミュニケーションを通して、生産者のこだわりを聞くことができます。安心感をもちながら、楽しんで食べることができます。生産者の方に感想を直接伝えられるので、農家さんのやりがいにつながるかもしれません。

1年間のぶどうのお世話

ぶどうの時期は、基本的には夏と秋です。では稲清農園は、冬と春は何をしているのでしょうか。冬と春は、ぶどうの品質を向上させるための作業を行っています。冬・春でぶどうを育て、夏・秋で販売します。生産やクオリティの向上という意味では、むしろ冬・春の方が重要だといえるでしょう。この時期に、稲清農園では、前年よりも品質を向上させるために、土壌改良や剪定(枝を切ることで木のバランスを整える作業)方法の変更など、さまざまな挑戦をしています。果物・野菜によって旬の時期は違います。育てる農作物によって1年間のスケジュール周期は全く別のものになります。

農業のさまざまな魅力

農業は、休みがなく体力的にも難しそうだと考える人は多いと思います。しかし、農業にはさまざまな魅力があります。まず、自然と向きあう中で試行錯誤ができることです。作物を育てる過程は、天候や気候の影響を大きく受け、毎年同じではありません。そのため、例年のノウハウが通用しないのだそうなんです。しかし、毎年環境が違いうからこそ、試行錯誤を繰り返すというやりがいがあるのです。

次に、自分に合った働き方を実現しやすいことです。時期や販売方法によっては1人で作業に向き合うことが多く、自分のペースで仕事を進めることが可能です。時期によりますが、気分が乗らないという日は少し休むなど体調と相談しながらスケジュールを組むことができます。

多くの方の活躍の場としての農業

農業はさまざまな方が活躍できる職業として期待されています。一例として、障がい者雇用が挙げられます。農業は自分のペースでできる仕事が多い上に、作業を細かく分けてみると、長年の経験が必要としない単純なものも多くあります。『農福連携』で障がいのある方も関われる可能性が目ざされています。コミュニケーションが得意ではない方など、多くの人にとって農業が活躍の場になるかもしれません。

これからの農業のために、これからの命のために

稲清農園は、先祖代々農園を継承しています。ですが、日本の農業人口は減少傾向です。これは、私たちにとても関係がある問題です。『食』があるからこそ、人間は生きていくことができます。現在では、食糧自給率の低下によって、国内での生産は減少傾向にあると言えます。それが続くと、国産の食品を食べられなくなるなど、私たちの生活にも悪影響がでます。今一度、食に関心を持ち、あなた自身の命の源に対しても、目を向けてみてはいかがでしょうか。



農園の手入れをする様子

稲清農園さんのスケジュール	
春	ぶどうの発芽時期 6:30～17:30
夏	ぶどうの収穫時期 5:00～20:00(最長で)
秋	土壌や木のメンテナンス時期 7:00～17:00
冬	来期に向けて木を休めてあげる時期 7:00～16:00

稲清農園
https://www.inasenouen.com/

大阪城公園で学べる戦争と平和



ピースおおさかの外観

焼け野原、大阪

大阪が焼け野原になったこと、知っていますか？『広島、長崎、沖縄』といえば、太平洋戦争で被害を受けたことを知っている人は多いと思います。ですが、実は大阪も戦争で多大な被害を受けていたのです。戦争末期、50回を超える空襲が大阪を焼きました。死者は12,620人、行方不明者は2,173人となり、被害は甚大なものです。このような歴史を風化させず、後世に伝えるため活動しているのが『ピースおおさか』です。ピースおおさかは、大阪市中央区の大阪城公園にあります。今回は、ピースおおさかとその取り組みを紹介しながら、戦争の悲惨さ、理不尽さに目を向けず、当時の状況について学んでいきたいと思います。

大阪が狙われた。どうして？

1945年当時、大阪は日本有数の軍事産業都市でした。中でも、大阪城公園周辺には『大阪砲兵工廠(おおさかほうへいこうしょう)』という軍事工場がありました。この大

阪砲兵工廠は、6万人以上が働き、東洋一とまでいわれていた大規模工場です。ここから、大阪は日本の軍事活動中心地だったといえるかもしれません。となると、敵国からすれば攻撃のターゲットになってしまうということです。そのため、大阪が標的の一つになりました。このことがきっかけとなり、米軍の爆撃機『B29』は、大阪の空を覆いました。ピースおおさかは、ジオラマやプロジェクションマッピングを通して、空襲当時の悲惨さを私たちに教えてくれます。臨場感のある音・映像による演出は、まるで空襲まっただなかの大阪にタイムスリップしたのではないかと錯覚を受けるほどです。

大切なのは、命よりも『国』？

「命を投げ出したら、建物はどうしますか？戦争当時、『防空法(ぼうくほう)』というものがありません。この法律は、『空襲で爆弾が次々と落ちてくるなかでも、避難せずにパケツリレーで燃えた建物を消火しろ』というものです。空襲の中で逃げなければ、命を落としてしまうということは、現代の私たちににとっては当たり前の知識です。しかし、当時の日本には、この『防空法』という法律がありました。法律としてあった事実から、政府が認めていたということがいえます。

追悼のために

ピースおおさかでは、空襲で犠牲になった方々の追悼も行なっています。

入り口近くには『1945年の母子像』が展示されています。腕を伸ばしてうつぶせになっている女性。その手の中には赤子がいます。この母子像からは、空襲の最中、なんとしてでも子どもを守り抜きたいという女性の強い意志を感じ取れます。『刻の庭(ときのにわ)』も犠牲になった方々を追悼するための場所です。ここのモニュメントには、空襲で亡くなった方々の名前が刻まれています。そしてその周りに、「音の出るオブジェ」が8個置かれています。なぜ『8個』なのでしょう？それは、50回を超える空襲のなかでも、特に被害が大きかったとされる『大空襲』が8回あったからだそうです。

そして、この『刻の庭』という名前の由来は『平和を願う心が『刻(とき)』を超えて生き続けてほしい』という思いからきているそうです。今を生きている私たちは、その思いの継承者だといえます。『平和を願う心』を未来に伝えられるかどうかは、私たちにかけられているのです。

言葉・映画・アニメーションで語り継ぐ

戦争を風化させないために、当時を知る『語り部(かたりべ)』さんは戦争体験を後世に伝えていきます。しかし、現在では語り部さんの高齢化問題が叫ばれています。つまり、戦争当時を経験した方々が日本国内からいなくなってしまうということです。このまま放置していれば戦争が風化しかねません。そんななか、『語り継ぎ部』さんという方たちが全国で誕生しています。語り継ぎ部さんとは、従来の語り部さんとは違い、戦争当時を『体験していない』方たちが戦争の悲惨さ、理不尽さを伝えていくというものです。



また、ピースおおさかも『伝える』取り組みをしています。その中の一つに『定時映画』があります。これは、大阪空襲や戦時中のくらしを描くピースおおさかオリジナル映像資料(映画やアニメーション)を、主に団体見学対象に上映するというものです。物語という形式を使うことで、より感情に訴えかけながら、戦争の悲惨さを伝達することができます。

あなたの住む地域でも

本記事を読んで「大阪で空襲があったなんて知らなかった」という方もいると思います。私たちは、自分が生活する地域の歴史を意外と知らないのかもしれない。あなたが住む地域の歴史や、そこで起こった戦争・空襲について調べてみると、新たな気づきや学びを得られるのではないのでしょうか。

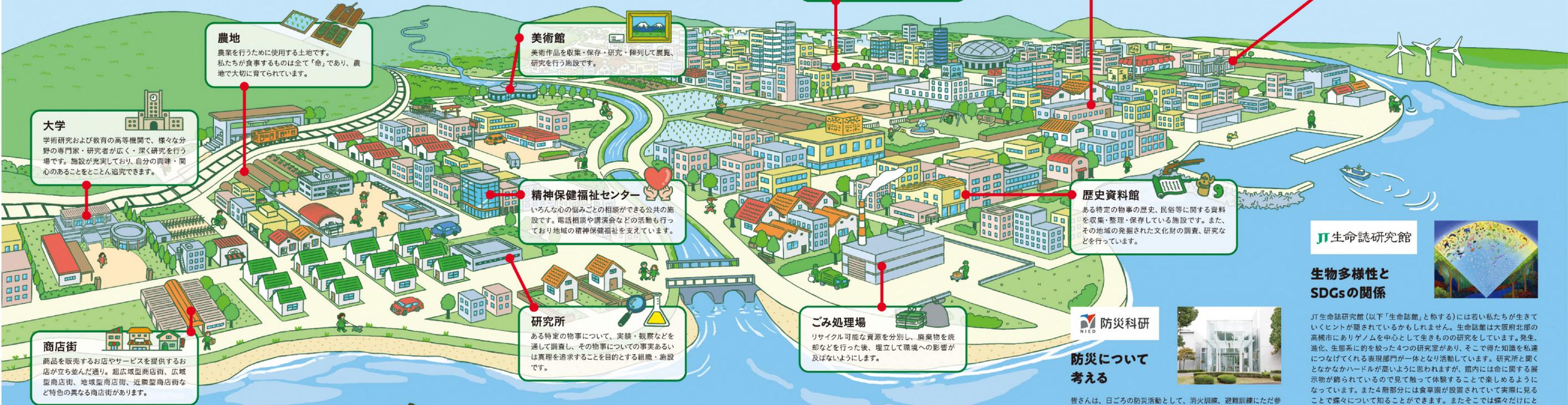
今だからこそ考える

戦争は国が起こすものです。しかし、その犠牲になるのは『国民』です。世界各地で戦争が起こる今だからこそ、もう一度平和や戦争について考えるべきでしょう。

ピースおおさか
大阪国際平和センター
https://www.peace-osaka.or.jp/

見て、知って、触れ合うSDGs体験

気候変動をはじめとする地球規模の課題が山積する中、私たちに何ができるのでしょうか。その問いに応えるため、このページではいのちをテーマにSDGsの達成に向けた探求を開始しました。そして、身近なところにSDGs達成のヒントが数多く存在することに気づきました。皆さんも、記事を読み進める中で、一緒にそれらのヒントを見つけてみませんか。



大切な人を救う ゲートキーパー

ここは街にある「精神保健福祉センター」、いろんな心の悩みごとの相談ができる公共の施設です。心の健康に関する活動を行っており、各都道府県や指定都市に設置されています。電話相談や講演会などの活動もされており地域の精神保健福祉を支えています。自殺だけではなくひきこもりや依存症など幅広い分野で相談することができます。

1. 若者の自殺について原因を紹介

全国の自殺死亡者数はおよそ2万人から2.5万人の間を推移しており減少傾向にあったものの、コロナの影響などもあり、近年では増加しています。若者が自殺をするイメージがある方もいますが、実際は40代から60代が約半数を占めています。しかし若者の自殺者数も増加傾向であり、相談する場所がわからなかったり、周りから見ても原因がわかりにくく衝動的に自殺してしまうケースが多いのが現状です。自殺に至るまでの家庭環境や学校での問題、そして自殺念慮の割合が高いことが指摘されているLGBTQの方の問題など原因は多岐にわたり、既述者の約5割は健康問題により自殺しています。また、心に傷を負ってしまい、うつ状態に陥ってしまうことも少なくありません。うつ状態になると一日中気分が落ち込んでいるなどの精神症状と眠れない、食欲がないなどの身体症状が現れます。その状態ではふとしたことがきっかけとなり、自殺行動を起こしてしまいがちなため周りのサポートが大切です。

2. 私たちができる対策を紹介

もし友達一人で苦しんでいるときに私たちが何をすることができるのでしょうか。選択の一つとして、今、国が推進しているゲートキーパー(命の門番)になることが有効です。ゲートキーパーとは「いつもと違う様子に気づく」「声をかける」「話を聴く」「必要な支援につなぐ」そして「見守る」人のことです。「ゲートキーパー」と聞くとしんどいことのように感じる人もいますが、それは「見守る」という行為が、最初のステップは「変化に気づく」ということでシンプルなもの。例えば、仲のいい友達と遊びに行った時にずっと黙っていたりずっと無口になっていたりおかしな様子。そういった時に「今日表情暗いけど体調悪いの？」など、さりげない会話に混ぜて相手の体調を尋ねることで、自分からは言えなかった不安感や悩みを吐露してくれるかもしれません。それがゲートキーパーとしての第一歩です。

次にゲートキーパーとしてすることは、聴くことです。相談している人は勇気を持って悩みを打ち明けてくれたり、聞くことで、否定されると大きく傷ついてしまいます。ですので、相手の意見を受け止めて共感し寄り添う姿勢が聴くことの重要なポイントになります。例えば死にたいと打ち明けたとしても、「考えすぎ、心配しすぎ」「何とかなるよ」と死にたいと思っている気持ちを即座に否定せず、「死にたいはどのくらいのことがあったんだね」と受け止めて相手の気持ちに共感してあげるようにしましょう。相手の気持ちに聴くことができた、次は適切な支援につなぐことが相手のためにも自分のためにも大事なステップです。支援につなぐ際は「せっか

く自分に打ち明けてくれたのに第三者に任せたら、相談してくれた人の期待を裏切ってしまうのではないだろうか。」と不安になるかもしれませんが、自分だけでは解決できない問題であることもあり、その時は専門家の力がとても役に立ちます。言い出しづらいかもかもしれませんが「〇〇っていう支援してくれるところがあるみたいけど一緒に連れて行ってほしいの？」などと、相手の判断を尊重するような聞き方をすれば相手を傷つけてしまうという心配もありません。

3. 今後の展望

ゲートキーパーは特別な研修や資格があるわけではありません。そのため、もししたら私たちはすでにゲートキーパーといえるかもしれません。また、私たちそれぞれが命を救える存在という意識を持つことでゲートキーパーとしての意識が周りに普及していきます。お互いに助け合えるようになるかもしれません。自殺を考えるほど苦しんでいる人の変化に気づけるのは、いつもそばにいる「あなた自身」です。また、ゲートキーパーに求められているのは、仲のいい人の「命を守る」ことだけではなく、本当に大事なのはわたしたちの持つ優しさなのかもしれません。

大阪市中心部の健康センター

【こころの健康相談統一ダイヤル】
電話：0570-064-556
月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前10時から午後5時
3月の自殺対策強化月間にあわせて、3/1(金)～3/31(日)の1か月間、24時間対応の電話相談を実施します。
※3/1(金)は午後9時30分から開始。
3/31(日)は午後5時で終了します。
<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000555029.html>



理由なき殺処分 ゼロの理由とは

動物と関わる行政の仕事は、「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づく犬猫の引取りや公共の場所にいる負傷した犬猫の収容などがあります。これらの犬猫は動物愛護センターに移された後、飼主主に返還されたり、新しい飼主に譲渡されたり、殺処分されることもあります。大阪市は、以前は犬猫の殺処分数が政令指定都市の平均に比べてかなり多かったのですが、近年犬猫の数を減らすことに成功しました。殺処分数を減らすためには何をする必要がありますか。

1. 殺処分について

大阪市は「犬猫の理由なき殺処分ゼロ」というスローガンを掲げ、さまざまな取り組みを行っています。「理由なき」とはどういう意味なのでしょう。収容された犬猫の中には、治療しても生存が見込めないため苦痛を表明させないよう、また、凶暴な性格により譲渡できないなどの理由により、殺処分される場合があります。「理由なき殺処分ゼロ」とはこのような致し方ない理由以外の殺処分をなくするという意味です。大阪市の犬猫の殺処分数は平成28年の1,248匹から令和4年度の185匹と大幅に減少しており、万博開催の2025年までに「理由なき殺処分ゼロ」を達成することを目指しています。具体的には、飼主が適切に飼育したり、終生飼育するよう促したり、収容した犬猫の返還・譲渡を推進したり、これに取り組んでいます。特に、以前は譲渡が難しかった哺乳類の子猫であっても、管理の方法を工夫することでできる限り譲渡につながる取り組みや、野良猫に不妊去勢手術を行い、一代限りの命として地域の皆さんで管理していただくことを支援する「所有者不明猫適正管理推進事業」により、地域の野良猫の数を減少させる取り組みも進められています。こういった包括的な取り組みにより、犬猫をむやみに殺処分するのではない「理由なき殺処分ゼロ」を推し進め、ともに共生できるまちになるよう取り組みを行うのが動物管理行政の役割なのですね。

2. 私たちにできること

身近なところで私たちにできるのは、一度飼うと決めた動物は必ず最後まで責任を持って飼うといった終生飼育を徹底することや、動物愛護の精神をもち適切な関係で動物と関わるということです。大事なことは動物たちと共生する気持ち、一度飼うと決めた動物は最後まで愛情を持ち続けたいといった気持ちなのではないでしょうか。

大阪市健康局
<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000433333.html>

図書館

図書、記録などの資料を集積、整理、保存して利用者に提供する施設です。国立国会図書館・公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館・その他施設に設置される図書館などがあります。

図書を収集・保存・研究・陳列して展覧、研究を行う施設です。

学術研究および教育の高等機関で、様々な分野の専門家・研究者が広く深く研究を行う場です。施設が充実しており、自分の興味・関心のあることをとことん追究できます。

美術作品を収集・保存・研究・陳列して展覧、研究を行う施設です。

あつた心身の悩みごとの相談ができる公共の施設です。電話相談や講演会などの活動もされており地域の精神保健福祉を支えています。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

リサイクル可能な資源を分別し、廃棄物を焼却などを行った後、埋立して環境への影響が及ばないようにします。

喜界島サンゴ礁科学研究所
KIKAI Institute for Coral Reef Sciences

喜界島から地球の環境 をのぞいてみよう!

ここは、鹿児島県の下の方で沖縄県より南の上の方、鹿児島県奄美群島のうちのひとつ、喜界島。この島はサンゴ礁が隆起してきた世界的にも珍しい島で、サンゴ礁研究が盛んに行われる場所でもあります。ここに、喜界島サンゴ礁科学研究所があります。この研究所では「100年後の未来」をテーマに、サンゴ礁の海洋・地質・生物・環境に関する調査・研究事業が行われています。

また、地域活動や教育プログラムにも力を入れており、町の小学校と連携して、総合的時間にサンゴ礁の環境について学習する単元を設けたり、役場と連携して地域でのジオパーク活動の推進、島外からの高校生を受け入れるサンゴ留学を実施したりしています。そして、地域での活動に限らず日本全国からさまざまな児童・生徒・学生が参加できるプログラムも実施しており、小中高校生のみならずには「サンゴ塾」、「サンゴ礁サイエンスキャンプ」、大学生の方には「インターンシップ」などを提供しています。「サンゴ塾」では、小学5年生から高校3年生までを対象に、サンゴ礁をフィールドとする一流の研究者と一緒に毎月の講義と春夏のフィールドワークで学びを深めます。地球環境を広い視点で考えることのできる思考力・問題解決力・コミュニケーション力を身につけ、次世代のリーダーを目指します。「サンゴ塾」にはレクチャーコース(小学5年生～中学3年生)、研究コース(レクチャーコース修了生と高校生)、アーカイブコースの3つのコースがあります。レクチャーコースの講義は、オンラインで日本全国・海外からでも受講することが可能です。また、講義をオンデマンドで受講したい方にはアーカイブコース、さらに研究に深く取り組みたい方には審査を受けて研究コースと希望に合わせた選択が可能です。そして、「サンゴ礁サイエンスキャンプ」は、夏休みの8月に喜界島で行われるフィールドワーク、大学等研究機関の研究者や大学生と一緒に、4泊5日でテーマに沿って調査を行うデュアルコース(対象:小学3年生～高校生)と7泊8日で講義と研究計画の立案・調査まで行う本格的なアドバンスドコース(対象:高校生とサンゴ礁研究コース生)があります。

大学生を対象とした「インターンシップ」では、サイエンスコミュニケーションや地域づくりに興味のある学生を中心に、喜界島での研究活動や地域活動に関する機会を提供しています。実際に1ヶ月以上島に長期滞在しながら、研究だけではなく、島の生活や文化に関する知見を深めることも可能です。この小さな島、喜界島は小さな地球のモデルです。ここで学び、体験したことをいろんなところで実践すれば100年後の未来は良い方向へと変わっていくかもしれません。ぜひ一度、喜界島のフィールドワークに来てみませんか?

国立研究開発法人防災科学技術研究所
<https://www.bosai.go.jp/>
【YOU@RISK】 <https://youatrisk.bosai.go.jp/>

国立研究開発法人防災科学技術研究所
<https://www.bosai.go.jp/>
【YOU@RISK】 <https://youatrisk.bosai.go.jp/>

工場

機械などを使用し、物品の製造・加工を行ったり、機械関係の点検、整備、保守などのメンテナンスを行う施設です。工場見学は、いつもと異なる視点で製品を見ることができます。

学術資料や美術作品などを購入や委託・寄贈などの手段で収集・保管し、調査研究して資料の価値を調べ、その成果を来訪者に展示などの形で提供する施設です。

ある特定の物事の歴史、民俗等に関する資料を収集・整理・保管している施設です。また、その地域の発掘された文化財の調査、研究などを行っています。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

防災について考える

皆さんは、日ごろの防災活動として、消火訓練、避難訓練にただ参加していませんか?災害時には避難情報に頼りきりになっていませんか?自分自身で災害に備えた適切な行動について考えることを放棄していませんか?防災においては、地域で起こりうる災害リスクを理解したうえで、災害時に困ることは何か、できることは何かを自分で考えることが重要です。

そこで、災害時の意思決定を支援する防災情報プラットフォームとして「YOU@RISK」(ユア@リスク)の研究開発に携わっている防災科研(国立研究開発法人防災科学技術研究所。地震災害、津波災害、風水害、土砂災害など、自然災害の発生メカニズムを解明し、災害に立ち向かうために役立つ技術開発に取り組んでいる研究所)の李豪英(いてん)主任研究員に、「YOU@RISK」の活用方法や読者に意識してほしいことをインタビューしてきました。李研究員によると、災害から命を守るための適切な行動においては、防災に関する知識を使った意思決定が最も大事なことです。例えば、知識を持っている人の場合、「ここは〇〇の危険があるから△△で避難しよう」という風に意思決定を行い行動することがあります。一方知識を持っていない人の場合、どのような危険性があるのか、どこに避難すれば良いのかが分かりません。調べようにも、どう調べれば良いのかが分かりません。特に、即座の避難が求められる災害の場合は、いかに素早く意思決定を行い、行動に移せるかが重要になります。李研究員は、こういった意思決定が遅れば遅れる程危険な状態に陥ってしまいがちなので、災害から命を守る適切な行動を取るために、日ごろから「YOU@RISK」のような防災に関する知識を活かして意思決定の学習をしてほしいと強調しています。

「YOU@RISK」では、災害に備えた防災行動について、4つのステップに段階を踏んで自分自身で考えることができるようになっています。まず1つ目が「どんなリスクがあるか」。自分が住む地域、学校や職場がある地域にはどのような災害リスクが潜んでいるのかを確認します。2つ目は「いのちを守るためにどうするか」。想定されている災害が実際に発生した際、どんな課題に直面するのか、その上でどこにいつ避難すべきかを考えます。3つ目は「くらしを守るため」にどうするか。災害発生後も生活を続けるための備えを学びます。4つ目が「より深く知り行動するために」。高層階にいる人やペットを飼っている人、小さい子どもがいる場合を知っておくべきこと等、役立つ情報を得ることがあります。このように、「YOU@RISK」は、防災に関する知識がない人にも、防災活動に取り組むにも何から始めれば良いのかわからない人にも理解しやすい流れになっています。「災害時の意思決定は自分ですもの」なので、避難情報にただ待つだけでなく自分で判断し早めに行動することを意識してほしいとのことです。

日頃から防災意識を持って備えておくのと、しないのではかなり差があるので容易に想像できます。災害が発生した時に後悔しないよう、今一度防災について考えてみてください。私たちは普段から様々なことが自分にあるのか主体的に考えなければいけません。そのためにもまず自分から知識をつけるという姿勢をもつことが大事なのではないでしょうか。

国立研究開発法人防災科学技術研究所
<https://www.bosai.go.jp/>
【YOU@RISK】 <https://youatrisk.bosai.go.jp/>

博物館

学術資料や美術作品などを購入や委託・寄贈などの手段で収集・保管し、調査研究して資料の価値を調べ、その成果を来訪者に展示などの形で提供する施設です。

ある特定の物事の歴史、民俗等に関する資料を収集・整理・保管している施設です。また、その地域の発掘された文化財の調査、研究などを行っています。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

ある特定の物事について、実験・観察などを通して調査し、その物事についての事実あるいは真理を追求することを目的とする組織・施設です。

生物多様性とSDGsの関係

JT生命誌研究館(以下「生命誌館」と称する)には若い私たちが生きていくヒントが隠されているかもしれません。生命誌館は大阪府北部の高槻市にありゲノムを中心として生きものの研究をしています。発生、進化、生態系に的を絞った4つの研究室があり、そこで得た知識を私達につなげてくれる表現部門が一体となり活動しています。研究所と聞くとなかなかハードルが高いように思われますが、館内には命に関する展示物が飾られているのを見て触って体験することで楽しめるようになっています。また4階部分には食草園が設置されていて実際に見ることで蝶々について知ることができます。またそこでは蝶々だけでなく、めぐる季節の中で移り変わる命の美しさを体感することもできます。生命誌館ではそうした中で「自分自身のく問い」を発見することができるはず。

1. 生きものについて

生命誌館では活動当初からSDGsにも取り組んでおりそれを理解する上で生物多様性の考え方が重要になってきます。多様性といってもただ単に生きものの種類の数が多いというわけではありません。たとえば、種の数だけを見ると今では一千万種近くと推定されていますが、それらのどの生きものにも入っているDNAのなごりは共通しており、元をたどれば共通の祖先を持っている仲間なのです。もちろん私たち「ヒト」も例外ではなく38億年前にもたどった共通の祖先がいます。今ある多様な生きもの一つ一つの存在。また、私たちが一人では生きていけないのと同時に多様な生きものも互いに協力し合っているだけだけでなく、相互の影響し合い環境と調和してこそ成り立つのです。

2. 食草園とSDGsのつながり

生命誌館では生物多様性と学びの場の提供に力を入れており、中でも「食草園」という形で生物多様性の意味を知ってもらう場の提供もしています。まず「食草」についてですが、デジタル大辞典によると「昆虫がえさとする特定の植物」と定義されているように、食草園は蝶を中心とした昆虫の食草をする場所としての役割があります。またここでは蝶を主に対象とした食草園を作っており、それができるのも蝶が蜜を吸い栄養を得るとともに植物の受粉を助けるという相互依存の関係があることや蝶が植物ごとに味を判別しているため幼虫に適した植物に産卵できるからと言えます。生命誌館の食草園はそういった蝶と植物があるような自然循環の現場を見せるテーマパークのような一面があります。さらにそこにはワイルドや細菌を含む生きものも数多く存在しており出会い、互いに依存しあってバランスを保っています。そういった意味でも自然の循環というサイクルはSDGsの考え方にも共通するところがあり、その体験を通して生物多様性ひいてはSDGsについて知ることができるといえます。また、私たちが普段から様々な生きものと共に生きているので、お友達や恋人と動物園や水族館に行くように生きものたちを学びに行ってみてはいかがでしょうか。

3. 私たちにできること

近年地球温暖化などの対策として学校でSDGsについて学ぶ機会が増えていますが、文字として見るだけではやはり身近に感じられず実感がないことだと思います。また環境問題の対策としてエコな生活があげられ太陽光発電やマイパワックなどが推奨されていますが、実際のところゴミになってしまっている環境を破壊する原因になってしまうのが自分にあるのか主体的に考えなければいけません。そのためにもまず自分から知識をつけるという姿勢をもつことが大事なのではないでしょうか。

JT生命誌研究館
<https://www.brh.co.jp/>

行動することで見えてくる景色

大学生になったひなたは、留学先でさまざまな人たちに会います。留学でひなたが見た、新しい景色とは？

登場人物



南 ひなた

大学で留学を決意したひなた。エマやミラ、語学学校での新しい友人たちと触れ合っただけでなく、海外で様々な経験を積み重ねていく。



エマ

高校生の時に日本へ留学し、ひなたに出会う。大学ではひなたのカナダ留学を支える。ミラとは小さい頃からの大親友。



ミラ

エマの幼なじみ。ネイルなどのお洒落が大好き。留学中のひなたに英語や現地のことを教えている。トランスジェンダー女性。

【大学生編①】価値観の異なる環境で

「ねえ、せっかくみんなで久しぶりに集まったんだから、高校卒業してからの話もしようよ。2人はどんな大学生生活だった？」

優子が言った。

「ウチ、ひなたの留学話が聞きたい！留学先で、エマちゃんと再会したんでしょ？」

夏希が身を乗り出し、「ああ、そうだったね！」と優子が興味深そうに聞いた。

私は、大学に入って1年間カナダに留学をして、そこでエマちゃんとまた会うことができた。

「ひなたは、何で留学をしようと思ったの？」

「うーん…。トランスジェンダーとか、優子が話してくれた児童養護施設についてとか。高校生の時に、自分が深く知らなかったことを知ること、それによって、もっと周りの人を理解できるようになることを実感したのね。だから、大学ではもっといろいろなことを知って自分の視野を広げたいと思ったの。じゃあどうやって？って考えたときによかったのが、エマちゃんの顔だったんだ。」

エマちゃんとお互いのことやお互いの国について話すうちに、海外への興味が湧いてきたことに気づいた。だから、留学して自分の視野を広げたいと思うようになった。

私は2人に話をしながら、留学の記憶を少しずつ思い出していく。

1年間の留学先は、エマちゃんの出身のカナダ・ビクトリアに決めた。同じく日本から来た人、南米から来た人、アジア圏の他国出身の人。通っていた語学学校にはいろいろな人がいて、それぞれ違う想いで留学に来ていることが興味深かった。

例えば、タイ出身の子は、先進国で勉強して、国に帰ったら会社を立ち上げるって言っていた。韓国からの留学生には、今は社会人だけど、休暇としてカナダに遊びに来ている人もいた。みんな自分の想いや考えを自由に発言していて、その雰囲気居心地よくて、私も自分を表現することに戸惑わなくなっていた。

「そうそう。ミラにも会えたよ！」

「おお！念願叶ったか！」

「エマちゃんに連絡して、会わせてもらっちゃった。会えたことももちろん、語学学校には日本人の割合が多かったし、みんな勉強途中だったから、ネイティブとして英語の手助けしてくれたことも感謝してるんだ。」

I want to broaden my horizons!

And I'll meet my friends.



I'm going to start a business!

victoria

I'm here on vacation.

PRIDE PARADE



Study Abroad JAPAN + CANADA

【大学生編②】「誰か」を傷付けないために

「実際にミラと話してどうだった？」

「すごく楽しかったよ。エマちゃんから聞いていたとおり、ミラは素敵な人だった。小さい時はたくさん悩んだこともあったみたいなんだけど、今は前向きに人生を楽しんでるみたい！」

「私が今みたいな性格になれたのは、小さい頃にエマちゃんにカミングアウトしたことが大きいと思う。」

ミラはそう話をしてくれた。

「エマは、私を特別な人だとか、変わった人だとか、そういう目で見ることが全くなかった。私を「私」とだけ見て接してくれるから、本当に彼女がいてくれて心強いと思う。」

ミラも、優子も、状況は違っても、誰かに打ち明けられる環境があるってすごく大きな安心になるんじゃないかな。

そんな打ち明けやすい・打ち明けやすい環境を作るのは周りにはいる人間で、だからこそ、周りが「異常だ」とか「普通じゃない」とか線引きするような発言をすることで、当事者がカミングアウトできない雰囲気を作ってしまうのだと思う。知らないことを勉強すること。自分の言葉が誰かを傷つける可能性があること。それをこれからめざすと忘れたくない。

「じゃあ、ほんとに素敵な留学だったんだね。」

ハートピースをすりながら、優子が言った。

「うん。でも、同時に考えさせられたこともたくさんあった。」

留学中、文化の違いに驚くことが何度もあった。カナダではマリファナが合法だから、街中で薬を吸っている人に遭遇した時は、衝撃だった。それから、ホームレスの人たち。街の中心街には路上で生活している人が結構いるみたいだった。お金を求められた時は怖くて逃げたけど、エマちゃんとミラに話すと、「ご飯を買って渡したり飲み物を買ってあげたり、優しく接する人もいるんだよ。」と教えてもらった。

世界にはまだまだ知らないことがたくさんあって、問題も多い。頭ではわかってはいたけど、留学をして初めて肌で感じた気がする。

「薬物やホームレスの人たち以外にも、私の知らない出来事や問題が、世界にはたくさんあるよね…。日本に帰って、それがずっと頭に残ってるの。」

「そっか。留学して、いろいろなことを考えるようになったんだね。」

留学で広がる可能性



甲南大学 国際交流センター Global Zone

留学という選択肢

留学は、日本以外の国で勉強や生活をしてみることで、異文化に触れ、自分と違う価値観や考えを持つ人に出会うきっかけになります。そんな留学をサポートしている、甲南大学の国際交流センターを紹介します。

国際交流センターとは？

留学する日本人学生の送り出し、外国人留学生の受け入れ、各種交流プログラムのサポートをしている部署です。国際交流センターでは、「FIT (Flexible, Individual, Timely)」なリサーチ(留学活動)を支援する」というスローガンを掲げていて、センター全体の想いとなっています。ここでは、学生一人ひとりが自分にFIT(フィット)する留学ができるように、さまざまなプログラムを用意。夏期・冬期休暇に留学をする1～2週間の短期プログラムから、3ヶ月間、半年間、1年間、2年間と、留学期間がさまざまです。また、世界23カ国・地域、154校の海外協定校・認定校から自由に合った留学先を選ぶことができます。1～2週間の短期プログラムでは、引率の先生が同行するため、不

安を感じる学生にも挑戦しやすい環境です。

学部関係ない留学を

甲南大学に「国際学部」といった学部はありませんが、文学部や経済学部など、どの学部に入っても留学することができます。また、「単位換算制度」というシステムを利用することで、留学先で修得した単位を甲南大学での単位に変換することが可能です。そのため1年間の長期留学をした場合も、4年間で卒業することができるのです。

他にはどんなサポートがあるの？

まず、留学前の事前準備です。学生は、留学先を決定・出願後、10～15回のオリエンテーションに参加しながら留学の準備を進めています。その内容は、単位換算の計画、先輩との交流会、保険のオリエンテーションなど幅広いです。先輩との交流会では、体験談を聞いたり、質問や相談もできるため、留学への不安を解消する機会として活用できます。

また、留学中のサポートでは、ホームステイ先の変更や安全確認があります。ホームステイ中にトラブルがあった場合、現地スタッフと連携して別の家庭への変更や、OSSMAというアプリを使った安全確認サポートが行われます。OSSMAとは、現地で事件や事故が起きた際に自動的に安全確認が行われるシステムで、何かトラブルがあった際は迅速に対応することができます。

このような留学前・留学中のサポート以外に、奨学金制度も魅力の一つです。「学習奨励金」という全員がもらえる奨学金もあり、授業料減免制度では、甲南大学の授業料を半期で7

万5000円に抑えることができます。他大学では、留学先の費用と日本の大学の学費を両方納める必要がある場合もあるため、甲南大学の大きな特徴といえます。甲南大学は、メディアムサイズの総合大学のため、留学に行く人数も大規模大学ほど多くありません。そのため、職員との距離が近く、気軽に相談に乗ってもらうことができます。小さなことですが、職員と学生がお互いに名前を覚えるということも、甲南大学らしさだと思います。オリエンテーションの他に、不安なことがあれば国際交流センターを訪ね、個人に寄り添って話を聞いてもらえることも魅力の一つです。

留学をサポートする想い

国際交流センターでは、さまざまなサポートを受けて留学を叶えた学生が多くいます。国際交流センターへの取材時には、「留学から帰ってきた学生を見て、彼らの成長を実感するのが嬉しい」とサポートに対する想いを語ってくださいました。その言葉やセンター全体の「FITなリサーチを支援する」というスローガンのとおり、留学サポートの充実さやセンターの方々の温かさが感じられる場所だと感じています。他の学校や、留学エージェントなど、さまざまな場所で留学のサポートがあります。身近なところでも、留学を支援する機関があると思うので、興味を持った方はぜひ調べてみてください。

甲南大学 国際交流センター
https://www.konan-u.ac.jp/keic/

半年間カナダのビクトリアに留学をした甲南大学の学生に話を伺いました。

留学して良かったと思うことは？

まずは英語が上達したことです。また、多くの人に会ったことで視野が広がりました。コロナ禍人の友人は、思っていることをハッキリと口にするのを大事にしています。自分と違う価値観に触れ、初めは文化の違いを感じましたが、次第にその違いがいまいち思うようになりました。

逆につらかったことはありますか？

言語の壁とホームシックがしんどかったです。留学当初はお店で注文する際も緊張していましたが、現地生活をしながら英語を使うことに慣れることができました。また、ホームシックになった際は、母と電話したり、留学先で楽しいことを目をつけることを意識していました。ホームステイ先のホストマザーが正直な性格の人で、不機嫌になることもあり、少しストレスに感じました。しかし、同じホームステイ先で過ごす学生たちと「ディナーがお葬式みたいやな」と笑い合ったりしていました。ごはんの内容に少しと感じたことはありませんでした。

今後のビジョンはありますか？

今年で大学を卒業しますが、日本で就職はせず、カナダの大学で勉強をします。英語の向上とともに幼児教育の資格を取り、現地で仕事をすることが目標です。日本で就活をする中で自分の生き方を考えた結果、海外で生活することを決断しました。実際に留学したからこそできた決断です。

読者へのメッセージ

留学したことで、英語の向上以外に視野や将来の可能性が広がったりと、得られたものの大きさを実感しています。もし留学に興味がある人は、短期間でもぜひ挑戦してください！

「すべての人が生きやすい社会」のために

LGBTQとは

LGBTQとは英単語の頭文字をつなげた言葉で、Lesbian(レズビアン=女性を好きになる女性)、Gay(ゲイ=男性を好きになる男性)、Bisexual(バイセクシュアル=女性・男性どちらも好きになる人)、Transgender(トランスジェンダー=生まれた時に割り当てられた性別とは異なる性別で社会を生きている、または生きていたいと思ふ人)、Queer(クィア=従来の性の規範に当てはまらない人)やQuestioning(クエスチョニング=自身の性自認や性的指向が定まっていな、または意図的に定めていない人)を意味します。今回取材したのは、特定非営利活動法人カラフルブランケットです。LGBTQの方を含めたすべての方が安心して暮らせる社会を目指し、活動をされています。

すべての方が安心して暮らせる社会を目指す

カラフルブランケットは、LGBTQに関する出張授業や居場所づくりのためのイベント開催、当事者とALLY(LGBTQの人たちの活動を支持し、支援している人たち※LGBTQ当事者ではないアライの人たちは特に「ストレートアライ」といいます)のための勉強会、同性婚法制化に向けての取り組みをしています。出張授業は、学校や企業、自治体が主催する講演会で行われ、性の多様性に関する基礎知識、LGBTQとは何かという話から始まります。次に、今の日本における同性婚、性同一性障害など、LGBTQに関する法律について話しています。そして、当事者の方が自身の体験談を共有し、「当事者は身近にいる」ことを伝えることを大事にしています。当事者にとって、自分のセクシュアリティをカミングアウトすることは

簡単なことではありません。当事者が身近にいることを知らないことで、悪気のない言葉で、そばにいる誰かを傷つけてしまう可能性があります。例えば、「彼氏いるの?」「彼女は?」といった何気ない言葉も、異性を好きになることが当たり前だ、という考えの表れだと捉えることもできます。そこで、「彼氏」「彼女」の代わりに、「パートナー」という言葉を使ってみるとどうでしょうか。好きになる性の対象を限定しない言葉に、受ける印象が一気に変わるように感じます。たった一言の違いでも、相手に自分の理解を伝えることができるのです。出張授業後は、実際に話を聞いた学生や企業の方から、「人の気持ちを考えて、寄り添ってあげるように行動していきたい」という声が多く寄せられます。当事者ではない人にとって、当事者の方の気持ちを完全に理解することは難しいと思いますが、相手の気持ちを想像することはでき、そのための知識としてLGBTQについて知ったり、当事者の気持ちを聞くことが大切です。まず自分ができることを考え、行動することで、日常における意識の持ち方が変わってくるのではないのでしょうか。



私たちが「いいふうふ」になりたい展の様子

私たちが「いいふうふ」になりたい展

日本では同性婚に準じる法律がありません。それは他国に比べて日本の同性婚に対する考えが薄いことを意味し、G7(先進国首脳会議)において同性婚に準じる法律がないのは日本だけと言われていました。そのため、同性婚の法制化に向けて自分たちで行動を起こそう、と「私たちが「いいふうふ」になりたい展」という展示会を関西をはじめ、東京や名古屋など複数の都市で開催しました。第1章では、同性婚制度について説明があり、法的な結婚の必要性について知る内容になっています。第2章では、同性婚が法的に認められていない今、何ができるのかを知ることができます。例えば、当事者に向けて、公正証書遺言を作る、パートナーシップ制度を利用するなど、当事者が自分を守る方法を示しています。第3章では、同性カップルの結婚式の写真が展示されていたり、パートナーに宛てた直筆ラブレターをみることもできます。そこでは、二人がどう思うか、どう暮らしているのか、同性婚に対してどういう思いを持っているのかについて紹介されています。手紙を読んだ人の中には、涙を流した人もいたと聞きました。最後に、カラフルブランケット理事長の井上ひとみ様に、読者へのメッセージをお聞きしました。

読者へのメッセージ

以前に比べるとLGBTQに関する理解が進み、暮らしやすい社会になってきたと言われますが、まだまだ生きづらい現状があります。親しい友人にはなんとかカミングアウトできても、「会社では絶対に打ち明けられない」「親には言えないので墓場まで持っていく」というLGBTQ当事者の話を今もたくさん聞きます。

ごく最近でも、私がレズビアンであることを知らない人から「同性愛者は気持ち悪い」と面と向かって言われたことがあります。2023年の調査ではLGBTQ当事者は9.7%いるという結果が出ました。知らない事柄に対して「面倒だ」「怖い」と思うのはある意味当たり前だと思うので、講演などで当事者の話が聞ける機会があればできるだけ聞いていただきたいですし、普段から、身近な人がLGBTQ当事者かもしれないということを頭の片隅に置きながら話したり行動してもらうだけで、社会が良い方向に変わるのではと思います。



同性同士の結婚の様子

特定非営利活動法人カラフルブランケット
http://www.colorfulblankets.com/

「世界」を変える第一歩を。

ひなたは明るい未来社会をつくるために、初めての一步を踏み出そうとしている。幼いころから触れてきた経験が、ひなたを動かしていた。

「いろいろあったけど、もう大学卒業かぁ。ひなたはこれから何するの?」

空になったティーカップを見つめながら、夏希が聞いた。

「JICA海外協力隊に応募して、途上国で教育活動に従事しようと思ってるんだ。」

「え!すごいね、ひなた」

「なにかきっかけがあるの?」

優子に尋ねられ、ひなたは真剣なまなざしで話し始める。

「世界を舞台に、誰かのために貢献したいと思ったんだよね。留学した時に決めたの。ずっと、高校の時の児童養護施設の話が忘れられなくて。生まれた環境に影響されず、世界中みんなが明るい未来を歩める社会をつくりたい。だから、途上国で教育に携わって、子どもたちの自立を支援しようと思っているの。」

「ひなたはさすがだなぁ。ウチも社会のために何かできることあるかな。」

夏希が呟いた。

「想いがあれば、誰でも一步を踏み出せるよ。どんな形でも一步を踏み出してみることが大事だって思ってるんだ。」

ひなたの言葉に、2人は目を輝かせた。

「私たちも、一歩ずつ進んでいこう!」

一歩踏み出すのは簡単じゃないけど、その一歩で世界を変えることもできる。きっかけは身近なところにあるかもしれない。さあ、あなたも「一歩」を踏み出してみよう!

Stay hungry. Stay foolish.

自分の心に従って進め。



"Stay hungry. Stay foolish" is R.Buckminster Fuller's words written on the back cover of the final issue of "Whole Earth Catalogue", a magazine inspired by Fuller's "Spaceship Earth" idea. The "Whole Earth Catalog" inspired Steve Jobs. He quoted these words in his commencement speech when he was invited to Stanford University's graduation ceremony.

社会課題の解決を目指す生き方

ソーシャル・アントレプレナーシップとは

関西大学の横山恵子教授に、自分たちの手で課題解決を目指す「ソーシャル・アントレプレナーシップ」について伺いました。

「ソーシャル・アントレプレナーシップ」とは、社会的課題をビジネスの仕組みで解決し、収益性と両立させる企業家精神&活動のことを指します。一般的なアントレプレナーシップの視点では、利益が見込めるところでしか事業創造をしますが、ソーシャル・アントレプレナーシップの第一ミッションは「課題解決」です。課題解決の事業を持続可能なカタチで回し、利益を得る必要があるため、社会的課題から新たな

なビジネスモデルやアプローチを創出する「革新性」が不可欠です。課題解決を第一に考える「社会性」、収益で事業を持続可能な「事業性」、そして「革新性」の3つの柱が重要となり、これらを創造するからこそ、ソーシャル・アントレプレナーシップなのです。この力を発揮するためには、広く社会に目を向けることが大切です。そして気になった課題を深掘りして、その緊急度や重要度が高いか、なぜ着手するのといった「洗い出し」と「検討」を行います。「なぜ社会的課題に取り組むのか」をしっかり自分に落とし込むことがアクションへのぶれない軸になるため、課題を深く知り、共感して、当事者に寄り添

自分を開く、世界をつなぐ

—JICA海外協力隊という人生の選択肢—

「自分を変えるきっかけになる」。それが「世界を変えるきっかけ」にもなる。そんな活動があります。開発途上国を元気にしたい!と強い想いで活動する「JICA海外協力隊」についてご紹介いたします。1965年に初代隊員がラオスへ派遣されて以来、これまで5万人を超える隊員が参加してきました。現在、73カ国1,376人の隊員が活動しています(2024年1月末時点)。20~69歳までのさまざまなキャリアを持つ隊員が現地の人々と一緒に生活し、協働しながら開発途上国の課題解決に協力しています。皆さんは「JICA海外協力隊」と聞いて、どんなイメージを抱きますか?井戸掘りや農業支援などのイメージを持つ方も少なくないでしょう。隊員の活動は幅広く、「公共・公益事業」や「農林水産」の分野はもちろん、9つの分野・180以上の職種があり、隊

員は自分の持っている技術や経験を生かして活動しています。例えば、地域に入り込んで住民が望む生活改善や収入向上、地域活性化への寄与を目指す「コミュニティ開発」という職種があります。この職種は、案件によって内容はさまざまですが住民と同じ目線でコミュニケーションを重ね、地域の活性化のため新しい企画や解決策を考えていく活動です。また、学校や自治体などでITの基本的な事を教える「PCインストラクター」という職種は、学校や職業訓練校で生徒に就労に必要な基本的なスキルを身に付けてもらい生徒の将来の職業選択の幅を広めることに貢献します。他にもスポーツの分野では、陸上競技、水泳、野球、柔道、サッカーなど27の競技が職種として存在し

熊野の魅力を世界へ

—関東から故郷に戻った後呂さんの挑戦とは—



WhyKumanoのオーナー 後呂孝哉さん

和歌山県南部にある那智勝浦町。世界遺産の熊

域でしか味わえない体験」の大切さ、そして地元「和歌山、熊野の魅力」に気付かれます。自らもゲストハウスを作ろうと決意し、29歳で故郷へUターンしてWhyKumanoを立ち上げました。WhyKumanoでは、那智勝浦などの熊野地域を訪れた人に「あなたにとっての熊野とは? (WhyKumano?)」と問い、自分なりの「ここが好き! (This is Kumano!)」を見つけてもらい、地域のリーダーになってもらうことを大切にしています。そして訪れた人が家に帰ったとき、「自分にとってこのまちの良さは? (Why○○?)」と考えるきっかけになってほしい。WhyKumanoは、後呂さんの地域を愛する想いが世界中に広がっていくことを目

自分の直感を信じて

行動がきっかけになる

香港・シンガポール・オランダなど5カ国での生活を経験された田代さんにお話を伺いました。

海外に行くことを決めたきっかけは何ですか?

当時いた環境への違和感に素直になれたことと、やりたいことはすぐ行動に移っていたことです。日本の学校では、ただ板書をしたり、一見よくわからない校則に意味を見いだせず、不公平・理不尽な権力が振り回されているように感じていました。中学2年生の時、フリー・ザ・チルドレンという、貧困や児童労働で健康被害などを受けている子どもたちの支援をする団体の支部を学校で立ち上げたり、核戦争反対・平和維持と向き合う団体を立ち上げ、文化祭で展示を毎年行いました。世界では想像もできない不条理や不平等が存在し、多くの人々が苦しみや痛みとともに生きていることを実感したのです。それを知ること、自分の違和感や息苦しさ、少し解消されるような感覚がありました。そして学校の講演会で、ユナイテッド・ワールド・カレッジ、通称UWC*を知り、香港のUWCに出願しました。

行動する際に周りにから否定や批判されることはなかったですか?

「本当にできるの?」と言う大人はいましたが、応援してくれる人が多くいたおかげで前に進みやすかったです。両親は、過度に私を支えることも否定することもなく、たまに活動について聞いてきます。方向性を決める助言ではなく、私のポテンシャルをた

い「自分事」にすることがカギとなるでしょう。社会にはさまざまな課題解決に向けたプログラムやコンテストが用意されているので、参加してみるのも一手です。解決に向けた構想を練って、第三者との対話の中で改良していく「壁打ち」もとても大切で、アイデアをさまざまな視点から見てもらい、よりよいものに仕上げるができます。自分の想いや夢を共通のテーマをもつ多様な人に伝える上では、明確に言語化する必要があり、具体性により高めることになります。ただ、1つ目の構想で実現できることは限られています。実際に、横山先生のゼミでは衣服の生産過程にお

いて人や環境に配慮する「エシカル」をテーマとしたファッションショーに取り組み、この取り組みを契機に本を出版しましたが、この一連の活動が生み出したインパクトを想像すると、社会的課題の大きさに比して本当にささやかなものに過ぎません。しかし、活動の積み重ねが、ムーブメントを作っていくことにつながります。どんな小さな構想でも具現化してみることは尊いのです。どのような組織にいても、どのような形でも、社会的課題を自分事化するチャンスに巡り合ったら、「ひとつの生き方」としてソーシャル・アントレプレナーシップを発揮してみてください。



ます。その活動内容はオリンピックナショナルチームの指導から、スポーツを通じた青少年の情操教育や規律の順守など社会性を身につけるなど多様な内容があります。職種選びは「マッチング」です。これまで何をしてきたか、特技や経験と自分の持っている潜在能力と、なりたい自分の姿を合わせた先に、答えがあります。技術や経験がないと思っている方も、何か自分の強みを持っています。「自分自身の棚卸」をすることが、人生のきっかけとなることがあるかもしれません。海外への憧れ、開発途上国への思い、JICA海外協力隊への興味がある方は、ぜひ応募を検討して

みてください。隊員募集は、通常春と秋の年2回行われ、派遣先は開発途上国や中南米地域の日系人社会からの要請に基づき、募集されます。現地の公用語はさまざまな職種選びは「マッチング」です。これまで、日本で70日程度の派遣前訓練を受講し、さらに現地でも必要な語学力や危機管理能力を2週間ほど学びます。「語学力がないと参加できないのでは…」と心配に思っている方も安心です。「人生なんてきっかけひとつ」。世界をフィールドに、自分の可能性に挑む機会こそありません。自分の可能性に挑戦し、世界に貢献する。そんな人生の選択肢にいかがでしょうか。



指しています。「いま、町全体をホテルに見立てる『まち宿プロジェクト』を進めています。那智勝浦は可能性に溢れているんです。町の衰退を悲観的に思うのではなく、無からこそ自分たちでつくれるんだとメリットに捉えることを大切にしています。」ゲストハウスからはじまったWhyKumanoのプロジェクトは、どんな広がっています。そんな後呂さんにとって挑戦とは? 「リスクをとることです。失敗などのリスクがありますが、リスクのない挑戦はありません。誰もやっていないことをするのもリスクです。おそれず挑戦して、本当にやりたいことをやろう!」



思います。ドイツの大学の人類学の修士カリキュラムでは、授業前に論文を2本読み、賛成か反対か、理由を書く課題が出されたり、学期末は必ず20~ページほどの論文を数本書くため、自分の問いを立て、他人の主張も参考にしつつ、意見や視点をアップデートする力を身につけました。

海外で大変だったことはありますか?

自分の意見を持つことが重要とされるので、意見を言葉にするのに慣れるまでは苦労しました。人によっては差別的な行為を体験します。悪気はなくても、アジア人の容姿を揶揄する行為を目撃したり、コロナ禍には中国人の友人が、ドイツの若者から「おお、コロナ!」と言われることがありました。そんな時は、一人で抱え込まず、学校や職場など周りの人に相談することが大切です。

長期で海外に暮らすか日本に住み続けるか、など、生き方に迷う人にどんなアドバイスをしますか? まず行ってみることで。最初の一步を踏み出さずにいるのであれば、学校や組織の中に海外で暮らしたことがある人を探して、複数人の体験談を直接聞いてみてください。海外で過ごしたことのある人は、その土地の相性も大事ですが、自分がした

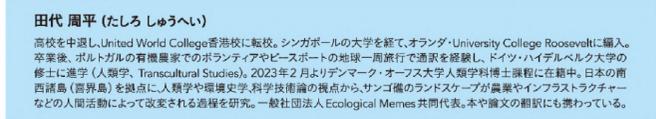
いことに着目してもいいかもしれません。人間は環境への適応力が高いので、ストレスのかかる環境でも、時間が経てば故郷みたいに根を張ることもできます。取り組みたい活動をする上で、最も適した環境を選ぶことが大切です。自分の関心を言語化し、あらゆる情報をできるだけ多く集めることを繰り返すうちに、自分の思い描く理想の環境が見つかるかもしれません。「ここかもしれない!」という直感を信じ、関係者に直接話を聞く中で、自分の内側で湧き上がる声に、じっと耳を澄ませる。「きっとこれはエネルギーを注ぐタイミングなんだ」。そんな感覚を受けとったら、一歩踏み出してみるのです。

読者の方へメッセージを!

人生を左右するかもしれない大事な決断を迫られた時は、自分の直感を大切にし、それに頼ることを意識しています。また、新しいことを始めても、いつでも諦めていい自由がある、と自分に言い聞かせます。思い切って辞める勇氣も必要で、辞める選択肢が常にあることで最初の一步を踏み出しやすくなります。



田代周平さん



学生部門

👑 グランプリ

【開発途上の小学生の基本的計算能力向上】

大阪府立水都国際高等学校 2年生 / チーム名: アフリカの小学生 × 計算カードプロジェクト

👑 ベストアクション賞

【ジェンダーバイアスに気づこう! 親子で学ぶディスカッションカード】

Abroad International School Osaka 5年生 稲見 遥さん

👑 ベストアイデア賞

【まんぷくゲームで食品ロス削減!】 追手門学院大学 3年生 / チーム名: ロッシー



グランプリ受賞者



ベストアクション賞受賞者



ベストアイデア賞受賞者

🏆 主催者賞

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会賞

【2030年すべての廃棄物を回収しSAFに】

洛南高等学校 1年生 村上 智絢さん

関西広域連合本部事務局賞

【小野の魅力を世界に発信! ~アットホームなまちづくり~】

兵庫県立小野高等学校 3年生 / チーム名: グローバル班

JICA関西 ベスト・グローバリスト賞

【開発途上の小学生の基本的計算能力向上】

大阪府立水都国際高等学校 2年生 / チーム名: アフリカの小学生 × 計算カードプロジェクト

近畿経済産業局長賞

【夢を広げるオープンファクトリー】

大阪桐蔭高等学校 1年生 / チーム名: やよい

🏆 企業・各種団体賞

関西テレビ賞

【ジェンダーに関して配慮や理解のある社会を目指して】

大阪教育大学附属池田中学校 3年生 / チーム名: 76期生コミュニティプロジェクトグループ

H2Oリテイリング賞

【私が店長 スーパーマーケット Satoka】

宝塚市内小学校 3年生 中川 聡香さん

特許庁 I-OPEN賞

【ジェンダーバイアスに気づこう! 親子で学ぶディスカッションカード】

Abroad International School Osaka 5年生 稲見 遥さん

チクマ賞

【あみだ池筋プロジェクトミライ by 大淀】

大阪市立大淀中学校 2年生 山下 珠理さん

浜田化学賞

【2030年すべての廃棄物を回収しSAFに】

洛南高等学校 1年生 村上 智絢さん

JOGGO賞

【~芸術の力で人を繋ぐ~ Art Connect People Project】

大阪桐蔭高等学校 1年生 / チーム名: TASKM

関西SDGsプラットフォーム 教育分科会 SDGsナレッジラボ賞

【学校を変える】

かほく市立河北台中学校 3年生 平木 智裕さん

関西SDGsプラットフォーム 食品ロス削減分科会 ZERO FOOD WASTE賞

【米粉で持続可能な社会&廃棄ごみを救おう!】

辻学園調理・製菓専門学校 1年生 / チーム名: セサミライス

🏆 優秀賞

●小学生の部

【私が店長 スーパーマーケット Satoka】

宝塚市内小学校 3年生 中川 聡香さん

●中学生の部

【SDGsを描く映像制作】

中学 1,2年生

チーム名: 映像制作団体 MYSTORY

🏆 グッドアクション賞

●小学生の部

【世界の障害の人がロボットで笑顔に!!】

枚方市立東香里小学校 6年生

チーム名: PWDスマイル

●中学生の部

【中学生だからできるプロジェクト

車いすルートマップ作成】

神戸市立太田中学校 2年生

チーム名: 神戸市立太田中学校 76回生

【就職率向上と地域産業の活性化】

かほく市立河北台中学校 3年生

チーム名: Ys Ishikawa

●高校生の部

【夢を広げるオープンファクトリー】

大阪桐蔭高等学校 1年生

チーム名: やよい

●大学生・大学院生・専門学校生の部

【レディースライクの可能性~ブランド設立~】

追手門学院大学 1,2年生

チーム名: Gerden

●高校生の部

【スポーツの魔法~バラスポーツで繋がろう~】

大阪府立水都国際高等学校 1年生

チーム名: 水都バラスポーツ

【在日外国人の方の困りごとと解決の手助けを】

大阪教育大学附属高等学校池田校舎 2年生

野尻 華さん

●大学生・大学院生・専門学校生の部

【カワウソの幸せを守る絵本】

追手門学院大学 2年生 大西 真紗樹さん

【みんなの自宅部】

追手門学院大学 2,3年生

チーム名: 中身はちいかわ

学生サポート機関部門

👑 グランプリ

【プロジェクトワーク/コンサルティング研究】 大阪桐蔭中学校高等学校

👑 ベストアクション賞

【「五中 EXPO2023」】 松原市立松原第五中学校

▼第5回 関西SDGsユースアクション 2023 受賞者の詳細はコチラ

<https://www.youth2030.jp/ideacontest/award/index.html>



KANSAI SDGs YOUTH ACTION 2024

アイデア・アクション大募集!

SDGs達成のためにアクションを起こそう!
選ばれたアイデアは実現に向けてサポートします!

テーマ 「SDGs達成のために、私たちができることのアプローチ。または実施しているアクションについて」



▲詳細はコチラ

関西SDGsプラットフォーム (事務局: JICA関西、経済産業省 近畿経済産業局、関西広域連合)

関西SDGsユースアクション情報紙
「SDGs YOUTH Action」5号

発行日: 2024年4月19日

発行者: 関西SDGsプラットフォーム 教育分科会 SDGsナレッジラボ

〒550-0004 大阪市西区靱本町2-2-17 RE-006 401号 (NPO法人Deep People内)

E-mail: info@knowledgelab.jp TEL: 06-6447-7791 FAX: 06-6447-7792

企画・編集 SDGs YOUTH Action情報紙編集部 編集責任: 特定非営利活動法人Deep People

参加学生: 追手門学院大学	2年	山本 健斗	甲南大学	4年	入砂 初菜
関西大学	2年	青木 春文	静岡大学	4年	平本 薫乃
関西大学	2年	岸田 昂之	奈良県立大学	2年	上田 佳鈴
			University College London	4年	吉永 紗弥香

デザイン 株式会社イノセンス

配布協力 明治安田生命

一生運のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group

ユースアクション新聞を関西の各学校に配布いただいています。

協力 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、稲清農園、大阪市健康局、大阪市こころの健康センター、特定非営利活動法人カラフルブランケッツ、喜界島サンゴ礁科学研究所、甲南大学 国際交流センター、独立行政法人国際協力機構、関めぐみ、田代 周平、株式会社チクマ、ピースおおさか 大阪国際平和センター、特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル、国立研究開発法人防災科学技術研究所、横山 恵子、JT生命誌研究館、WhyKumano Hostel & Cafe Bar、関西SDGsプラットフォーム